

■山田美妙 小説家、詩人、評論家。言文一致の新進作家として名声を博したが、スキャンダルで没落し、早世。

やまだびみょう

明治維新・ 1868＝ 東京神田で南部藩士山田吉雄の長男に生まれる。祖父は神官で、母は江戸の町医者の娘。

初の日刊新聞1870＝ 2歳：浪人していた父が官途に就き、島根県警部長として赴任、

以後、各地に転勤となる間、東京に留まって桶屋を営む母の教育を受けて育つ。

明治6年政変 1873＝ 5歳：

幼い頃から尾崎紅葉と遊び友達であったが、

初の民間工場1875＝ 7歳：私立烏森学校に入学、久保公立巴学校に転学。紅葉は寺子屋に入ったため、次第に疎遠となる。

西南戦争・ 1877＝ 9歳：早熟で、四書五経はじめ漢籍の一通りの素読ができた。

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝12歳：東京府第二中学校に入学、紅葉と再会するも、彼が三田英学校に転学して、再び疎遠となる。

明治14年政変1881＝13歳：

多芸の才子であったが、一人で過すのが好きで、周囲からはやや偏屈に見えた。読本・草双紙類を愛読して殆ど暗記する一方、英文学にも興味を持ち始め、

岩倉具視没・ 1883＝15歳：中学校課程一般に進むが、病気のため退学。

秩父事件・ 1884＝16歳：大学予備門に入学して、紅葉と再々会する一方、ドイツ語を学ぶ。

内閣発足・ 1885＝17歳：中退し、尾崎紅葉らの硯友社結成に参加、機関誌{我楽多文庫}に小説を発表。

帝国大学始・ 1886＝18歳：*尾崎紅葉・丸岡九華と3人の詩を集め、「新体詞選」を編み、出版。初めは七五調の内容も幼稚な詩であったが次第に才能を示し、韻律にも工夫をこらして、硯友社の中で最も早く世に認められ、*婦人雑誌{以良都女}に関係、同誌に「風琴調一節」を発表。この序文で言文一致の由来を説いたが、{読売新聞}に時代小説「武蔵野」を発表するにおよんで、言文一致の新進作家として名声を博した。

国民之友始・ 1887＝19歳：短編集「夏木立」を刊行。雑誌{都の花}創刊に際し主宰者として招かれ、「花ぐるま」を同誌に発表。

帝国憲法発布1889＝21歳：「胡蝶」「この子」「いちご姫」等を書いて、大きな反響を呼ぶ。この頃が全盛期で、

帝国議会始・ 1890＝22歳：{改進黨}に入社する一方、{国民之友}に「日本韻文論」を連載して注目され、

足尾鉋毒始・ 1891＝23歳：「白玉蘭」。
この間、国語辞書編纂を手伝い、「日本大辞書」11冊を世に出す。

郡司千島探検1893＝25歳：脚本「村上義光錦御旗」に演劇改良の意欲を見せたが、以後、創作は全く停滞し、影が薄くなって行く。

日清戦争始・ 1894＝26歳：小石川に転居した年、{万朝報}に芸妓に茶屋待合を経営させてきたことを暴かれ、弁明してかえって問題となり、次第に孤立して行く。{太陽}への執筆を断られるが、

日清戦争終・ 1895＝27歳：*{文芸倶楽部}に発表した「阿千代」が好評でやや好転、閨秀作家田沢稲舟と結婚、合作を発表して好評、いよいよ復活かと思われたが、母と折り合いの悪い妻が別居させた直後に死去、自殺説も流れ完全に失脚。

白馬会・ 1896＝28歳：日本橋の歌妓と再婚、以後、3男1女をもうける。

八幡製鉄始・ 1897＝29歳：転居して祖母・母と別居する一方、夜学を開き、{やまと新聞}に入社するも、

Bushidou・ 1899＝31歳：退社。米西戦争後、来日したフィリピンの独立派の志士と知り合い、

教科書疑獄・ 1902＝34歳：將軍「あぎなると」を発表。{万朝報}の懸賞詩に応募するまでし、選外。

日比谷公園・ 1903＝35歳：{人民}新聞に入社するもすぐに退社。

日露戦争始・ 1904＝36歳：再び文壇に出ようと歴史小説を書き始め、{文芸倶楽部}に「性空上人」を発表、{やまと新聞}にも執筆。

日露戦争終・ 1905＝37歳：祖母が死去。
この間、「佐々木高綱」を書く。

アラビヤ創刊・ 1908＝40歳：脱稿したが、

韓国併合・ 1910＝42歳：「平重盛」を出版するも、文壇復帰を果たせずに、痛で没した。没後、「大辞典」刊行。